

船舶事故等調査報告書

平成22年6月24日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009横第169号	
事故等名	衝突	
発生年月日時刻	平成21年6月26日 05時20分ごろ	
発生場所	静岡県浜名湖南方沖 赤羽根港東防波堤灯台から真方位135° 25.5海里（M）付近 （概位 北緯34° 18′ 東経137° 33′）	
事故等調査の経過	平成21年6月26日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等</p> <p>A 油タンカー ふじしろ丸、251トン 140395、有限会社協和海運</p> <p>B 漁船 桃洋丸、6.6トン ME2-5465（漁船登録番号）、個人所有</p>	
乗組員等に関する情報	<p>A 船長、五級海技士（航海） 一等航海士、四級海技士（航海）</p> <p>B 船長、一級小型船舶操縦士</p>	
死傷者等	なし	
損傷	<p>A 船首部に擦過傷</p> <p>B 左舷後部を破損、機関等濡損</p>	
事故等の経過	<p>A船は、船長A及び一等航海士Aほか3人が乗り組み、平成21年6月26日、浜名湖南方沖において、針路約245°及び速力約11ノット（kn）で航行中、当直中の一等航海士Aが、B船のレーダー映像を5M程度で探知し、3M程度に接近したB船を視認したときに右舵をとったが、約300mに接近する状況となったときに衝突の危険を感じ、左舵をとるとともに機関を後進にかけた。</p> <p>また、B船は、船長Bが1人で乗り組み、浜名湖沖を約10knの速力で東進していた。</p> <p>船長Bは、3M程度のところにA船を視認したが、A船が避けるものと思い、操業を続けていた。</p> <p>両船は、05時20分ごろ、A船の船首とB船の左舷後部とが衝突した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 2、視界 良好、日出時刻 04時39分ごろ</p> <p>海象：海上 穏やか</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>A船は、浜名湖南方沖を南西進中、一等航海士Aが、B船のレーダー映像を5M程度で探知し、B船を3M程度で視認したが、その後、適切な見張りを行っていなかった可能性があると考えら</p>

	<p>れる。</p> <p>B船は、東進中、船長BがA船を3M程度に視認したものの、A船が避けるものと思込み、適切な見張りを行っていなかったため、A船が衝突のおそれのある態勢で接近していることに気付かなかった可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、浜名湖南方沖において、A船が西南西進中、B船が東進中、両船が適切な見張りを行っていなかったため、両船が衝突したことにより発生した可能性があると考えられる。</p>